

とにかく町を
きれいにしたい
思いで
いっぱいでした

なかの たかゆき
中野 隆幸

浪江町役場 住民課 課長

昭和42年（1967）、浪江町生まれ。

小高工業高校卒業後、1985年より浪江町役場。住民課をはじめ、税務、総務、生涯学習、教育総務、上下水道各課に務める。震災後は災害対策課放射線対策係長として町内の除染などの業務に携わり、現在も住民課で環境再生に取り組んでいる。

「我々の仕事は町民のために動くこと」。先輩から言われた言葉を胸に浪江町役場に務め、35年ほど経ちます。震災後は、やるべきことが山積みでした。原発事故直後の避難誘導、避難所への物資配送、二次避難所への町民移送など多岐にわたります。私自身は自宅が津波の被害に遭い、家屋などを失いました。辛うじて家族は無事でしたが、両親と子どもたちは福島市で避難生活、私と妻は二本松市で役場の仕事を続けました。2012年10月に災害対策課の放射線対策係長となり、まず取り組んだのは、線量に応じて町を3つの区域に再編すること。除染を進めるために、仮置場の確保も重要でした。帰還困難区域を除く約30の行政区に何度も出向き、ご理解を得ながら一つ一つ決めていきました。全町避難の間に田には木が生え、雑草もはびこっていました。「とにかく町をきれいにしたい」という思いでいっぱいでした。

2017年3月に一部地域が避難指示解除となり、帰還困難区域内の特定復興再生拠点区域の除染等が2020年12月より開始。拠点外の除染等の大きな課題が残りますが、町は少しずつ前を向いています。今後は水素を活用したまちづくりなど世界に発信できる魅力ある町にしていければと思っています。



震災から3年が経過した頃の浪江町。全町避難により住民の姿はなく、町の中には雑草が生い茂っている